



Newsletter

No. 62

2015年4月20日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原 2-22-17-108

http://www.labornetjp.org

labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8588 FAX 03-3530-8578

## アベと対決する「映画ムーブメント」を！ 7月に「ジョン・ラーベ」大上映会&「レイバー映画祭」

戦争できる国づくりに突き進む安倍政権。「定額働かせ放題」の残業ゼロ法案をはじめ、労働者の権利を根こそぎ奪う安倍政権。報道ステーションを叩き、ものいえぬ状況をつくろうという安倍政権。だからこそ、いま私たちが大きく声を上げるときである。全港湾・伊藤彰信さん、全日建・小谷野毅さんらが「労働組合も戦争反対の声を上げよう。歴史修正主義を許さない運動が必要だ」と動き出した。レイバーネットメンバーもこの実行委員会事務局に加わり、南京事件を考える映画『ジョン・ラーベ～南京のシンドラー』大上映会（7.20 日本教育会館）を行うことになった。7月25日には恒例の「レイバー映画祭」（田町交通ビル6Fホール）もある。これらをクルマの両輪にして、安倍と対決する大きな映画ムーブメントを作り出したい。なによりも、現代史を教わってこなかった若い世代、貧困に苦しむ青年層に参加をよびかけたい。上映運動を通して「歴史を知って仲良くしようぜ！ 安倍のジゴクへの道はゴメンだ！」の声を大きく拡げていこう。→第1回実行委員会は4月23日（木）午後1時～参院議員会館105会議室、賛同人募集も開始する。

### ●安倍政権が見せたくない映画 『ジョン・ラーベ』を拡げよう！

伊藤彰信

映画『ジョン・ラーベ～南京のシンドラー』を知っていますか。1937年12月、日本軍が南京を占領した際、安全区をつくり南京市民を守ろうとした欧米人がいました。そのリーダーだったドイツ人のジョン・ラーベの愛と苦悩に満ちた国際委員会での人道支援活動を彼の日記をもとに描いた劇映画の秀作です。独仏中の合作によるこの映画は、2009年に公開され、「ドイツ映画賞」の最優秀劇映画作品賞を受賞し、国際的に絶賛された映画です。

監督はドイツ人のローリアン・ガレンベルガー、そしてウルリッヒ・トゥクル、スティーブ・ブシュミ、アンヌ・コンシニなどの著名俳優が出演し、日本からも香川照之、柄本明、杉本哲太、ARATAなどが



が出演しています。

残念ながら日本では一般公開されていません。タブーとされる南京大虐殺をとりあげているから配給会社がつきませんでした。ついに自主上映が始まりました。7月20日（休）午後、東京の日本教育会館で大上映会が行われます。

日本人だけが「南京事件」を知らないことは幸せなことなのでしょうか。「過去に目を閉ざす者は、未来にたいしても盲目である」と言われます。戦後70年の今年、史実をしっかり見つめ、世界が日本をどのように見ているかを知ることは、これからの日本を考える上で重要なことです。特に若い人たちに観てもらいたい映画です。

なぜ日本では一般公開できないのか、どうしてドイツ人監督がこのような映画を撮ることができたのだろうかと思うと同時に、民族差別や非武装（無防備）と安全などについて考えさせられる作品です。

この上映会を単に映画鑑賞会に終わらせることなく、戦後70年を考える運動の一環として、安倍の「戦後レジームからの脱却」思想と対決する運動づくりにしようではありませんか。まず知ることです。7月20日に若い人を誘って参加しましょう。地方でも自主上映会を企画してはどうでしょう。（7.20大上映会 呼びかけ人）

### <レイバーネット TV 2015年放送案内>

#### ●4月22日、コメディアン 松元ヒロさん出演決定！

内容が過激すぎて「テレビに出られない芸人」といわれる松元ヒロさんが、ついに「レイバーネット TV」に出演します。「ジョニーと乱のほっとスポット」に乱入して「松元

ヒロのほっとスポット」になるかも。

★第85号4月22日（水）「安倍政権を笑い飛ばせ！」（仮）松元ヒロ。その後は、5月・6月の第2第4水曜日です。放送チャンネルは「レイバーネット TV」で検索してください。



# レイバーネット日本 2015 総会 新運営委員 8 人が加わりました

3月7日、東京「スペースたんぼぼ」でレイバーネット総会が開かれた。第一部の総会では、ことしの活動をめぐって短時間ながら活発なディスカッションがあった。安倍政権の戦争準備の動きに対する危機感が大きく、「いよいよ切羽詰まった正念場」「きちんと安倍と向き合う情報発信を戦略的に考え、実行しよう。お金もかけよう」などの意見が出され、確認された。またレイバー映画祭と同時期に取り組まれる映画『ジョン・ラーベ〜南京のシンドラ』大上映会（7/20・日本教育会館）に協力し、安倍の歴史修正主義に対抗していこう、という提起があった。また今回、新運営委員を8名増やしたが、活動領域をより拡充していきたい。二次会のみ参加も含め、全体で約40人が集まった。二部の特別イベントでは、フランス映画『スカーフ論争』上映と菊池恵介さん（同志社大教員）の解説があった。菊池さんは「移民・イスラム問題は政治とメディアによって作られたもので、民衆の眼を社会の根本問題からそらすために使われている」と断じた。1月のパリ銃撃事件のあと、フランスでは激しいイスラムバッシングが続き、「愛国法制定」の動きも進んでいるという。小泉改革・在特会の話も出たが、フランスから日本の「現在・未来」がくっきり見えてくる集いとなった。

## ● 2015 年度運営委員 計 37 人 順不同

<前年度から引き継ぎ・29人> 伊藤彰信（顧問・全港湾）/河添誠（共同代表・都留文科大学非常勤講師）/安田幸弘（共同代表・技術部）/尾澤邦子（共同代表・ノレの会）/松原明（共同代表・ビデオプレス）/土屋トカチ（事務局長・映像グループ「ローポジション」）/佐々木有美（事務局次長・ビデオプレス）/武田敦（事務局次長・首都圏青年ユニオン）/松元千枝（事務局次長・ジャーナリスト）/下見徳章（会計監査）/高幣真公（国際部・日中労働情報フォーラム）/杜海樹（ライター）/安齋徹雄（出版ネット）/岩川保久（翻訳家）/なすび（山谷労働者福祉会館）/東海林智（ジャーナリスト）/木下昌明（映画批評）/八幡純一（国労）/安並克磨（音楽家ユニオン）/森広泰平（アジア記者クラブ）/須田光照（東京東部労組）/ジョニーH（音楽班）/笠原真弓（川柳班）/杭迫隆太/乱鬼龍（川柳班）/堀切さとみ（映像制作者）/西中誠一郎（ジャーナリスト）/小山帥人（大阪）/木村ジョウ（関西報道部）

<新規・8人>山口正紀（ジャーナリスト）/白石孝（住基ネット連絡会）/前田健司（インディユニオン）/稲垣豊（国際部）/長島信也（「笑い茸」発行人）/竹内松直（川柳班）/井手窪啓一（なまユニオン）/大椿裕子（大阪教育合同労組）

## ● 会計報告(2014年1月1日～12月31日) 【基本財政】

□収入	
会費	1,246,000円 (402件)
カンパ	71,000円
雑入	55,445円
-----	
小計	1,372,445円
□支出	
ニュースレター印刷費・発送費	



会議交通費	314,779円 (5回分)
郵便・宅配	219,650円
封筒印刷	43,324円
運搬タクシー	60,316円
会場費	17,050円
送金手数料	24,000円
消耗品文具	12,640円
謝礼(講師・依頼原稿など)	40,872円
JCA-NET サーバー	25,000円
事務所維持費	213,175円
国際部活動費(翻訳)	240,000円 (月2万円)
技術部ウェブ管理費	72,000円 + 432円
備品類	72,000円 + 756円
	93,389円

小計	1,449,383円
基本財政	△76,938円 (a)

## 【レイバー映画祭 2014】

収入	571,405円
(参加費・チケット・カンパ・物販含む)	
支出	401,932円
差引	169,473円 (b)

## 【レイバーフェスタ 2014】

収入	403,410円
(参加費・賛同金・チケット)	
支出	451,763円
(チラシ印刷・映画代)	
差引	△48,353円 (c)

## 【川柳班・原発川柳句集】

収入	187,280円 (売上げ)
支出	17,397円 (宣伝チラシ)
差引	169,883円 (d)

## 【レイバーネットTV】

収入	TVサポーター会費	110,000円
	カンパ	128,000円
	雑収入	20,082円
	小計	258,082円

支出	放送一式17回分	
	(会場費・出演ギャラ・運搬費・スタッフギャラなど)	
		409,539円 (平均約24,000円)
雑支出	54,013円 (機材関係その他)	
小計		463,552円
差引		△205,470円 (e)
★トータル (a～e)		8,595円
★前年度よりの繰越		629,767円
2014/12/31 残額		638,362円

# あなたも「レイバーネット通信員」に！

## ウェブ報道を育てよう

松原 明

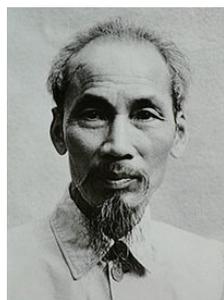
以下は私が2年前に書いた文章の一節だが、「通信の手引き」として参考にさせていただければ幸いだ。

### 「読みやすくわかりやすく」

私が一番いま思っていることは、レイバーネットの報道を質を上げることだ。やはりメディアが力を持つかどうかは、中身である。写真だってただ写っていればいいのではなく、より訴求力のあるものがほしい。それには一定の熟練が必要だ。

基本となる文章も同じだ。私たち一般労働者・市民は書くことに慣れておらず、自己流であったり、稚拙であったり、固すぎたり、伝わらない文章であったりすることが多い。それは、だれもが書き手になることができるメディアの弱点でもある。

そんなときいつも思い起こすのが、1970年代に仲間と発行したパンフレット『労働者通信』だ。そこに「通信運動のてびき」という項があり、「文章を書くうえでのコツ」を紹介している。「簡単に、適確に」（小林多喜二）、「観察してから書こう」（魯迅）など6人の先達の短文が紹介されているが、その一つ「読みやすくわかりやすく」（ポー・グエン・ザップ）がとくに私の印象に残っている。ベトナム独立の父ホー・チ・ミンのことを書いているが、その一部を紹介したい。（以下、抜粋）



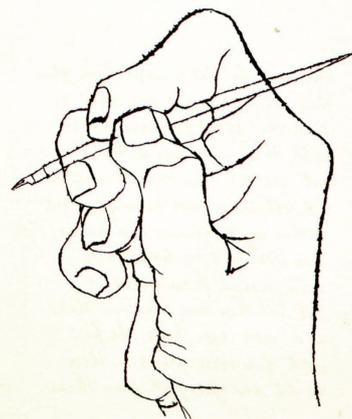
ホー・チ・ミン  
(1890～1969)

ホーおじさんは運動を指導するために、機関に新聞の発行を指示した。新聞の名称は『ヴェトラップ』（越立）と呼ばれた。判は小型であったが、ホーおじさんの指示で、文字は同胞が読みやすいように大きくすることになった。そのため記事は短く書かなければならなかった。ある時、おじ

さんから『ヴェトラップ』紙に婦人運動についての記事を書くようにといわれた。かれはいった。「きっかり百字で書くんだよ。それ以上だと紙面に載らないからね」。わたしは書きはじめたが、百字でまとめることはあまりにもむずかしかった。わたしが苦しみながら書いているのを見て、ホーおじさんは笑いながらいった。「諸君が送ってきた新聞は、わたしには読みきれなかったよ。ここに

人もみな読みきれなかっただろう。きみたちの新聞は文もうまいし字数も多いが読みづらい。また読めたとして理解できない人もいるだろう。この『ヴェトラップ』紙は簡単だが読みやすくわかりやすくしなければならない」。その後、各地区で仕事をする機会があった時、この新聞の影響力が大きかったことがわかった。どこでも『ヴェトラップ』紙は非常に歓迎されていた。（『人民から生まれて』1969年より）

このホーおじさんの「きっかり百字で書くんだよ。それ以上だと紙面に載らないからね」という言葉が好きだ。ネットでは、紙面の制限がないから「載らないからね」ということはない。しかし、短く簡潔に伝える、ということはいつも求められることだろう。実際、レイバーネットのトップページのリード文はちょうど300字である。だから、私は記者に「300字でいいから今日中に報告を書いてくれ」と頼むことが多い。



Ben Shahn

また、このポー・グエン・ザップの文章は、誰のために何のために「読みやすくわかりやすく」書かなくてはならないのかが、明確に語られている。当時のかれらにとっての目的は「ベトナム独立」のたたかいに民衆を引きつけるためだった。その民衆を捉えるために「読みやすくわかりやすい」必要があった。ここに「民衆メディア」の原点を見る思いだ。

（2013年1月29日記・小冊子『再考再論』「新米デスクのひとりごと」より）

\*次の著作は、記事を書く上で大変参考になるもので、お勧めです。『日本語の作文技術』（朝日文庫・本多勝一著）・『文章の書き方』（岩波新書・辰濃和男著）

## 新会員紹介

### ●より弱い立場の人と連帯を 野々村 耀

野々村耀（77歳）神戸市在住。1937年今のソウルで生まれ、日本の敗戦で1946年に日本に生まれ。1995年、阪神大震災の被災者支援に神戸に来たが、野宿していた人が同じく被災しているのに、支援されなかった（食料や物資の配給を受けられず、避難所から追い出されるなど）ので、引続き野宿している人を支援しています。以前、町工場に働いていたとき、組合をつくらうと思って、親会社の組合に相談したら、「お前らと一緒にやったら足を引っ張られる」と断られたことがあります。自分たちの利益だけを追求するのではなく、より弱い立場の人と連帯してほしいと思います。レイバーネットはそうだろうと思います。

### ●「君が代不起立」戦争の片棒は担がない 梅原 聡

レイバーネットの会員に加えていただいた大阪の府立高校教員の梅原です。2012年・2014年の卒業式で「君が代」斉唱時の不起立で戒告処分を受けました。同様の処分を受けて人事委員会への不服申立や裁判で闘っているグループZAZAの一員です。私の不服申立には、今年1月に処分を承認するという判決が出されましたが、内容には納得できず、裁判に進むことも検討しています。学校現場では職員会議が廃止され管理職の専横の下で、民主的な教育は壊滅的な状況になりつつあります。日々仕事に追われる現状の中で何もできずにいるのが実情ですが、教育が戦争のできる国作りの片棒を担がされていく現状を、黙ってみていることはできないと感じています。会員の皆さんのご支援をよろしくお願いします。

### ●定年後は安倍政権とのたたかい 倉知 博

第一次オイルショックの影響による狂乱インフレ最中の1974年4月にシェル石油（当時）に入社。同年10月に事務部門に御用組合がデッチあげられ紛争状態に。以来組合は、会社から解雇を除くあらゆる攻撃を受けた。脱退強要、暴力、不当配転、賃金昇格差別等々。労使紛争が解決したのは、定年退職11ヶ月前の2010年12月だったので、37年8ヶ月の勤務のうち、「平穏な」社員生活は、最初の6ヶ月と最後の11ヶ月のみ。特に70年代後半から80年代半ばは労使対立が激烈で、解雇・処分の可能性もあったが、無事定年を迎えることができた。定年後はのんびりしたいと思っていたものの、特に安倍政権の復活でそういう訳にはいかない。体力・知力の衰えを日々実感しつつ、やれることをやって行きたい。（全石油昭和シェル労働組合）

## go go レイバーネット

\*最近話題のレイバーネット記事から

### ●ゲイと炭坑夫の連帯は可能か～英国映画『パレードへようこそ』

英国映画の『パレードへようこそ』はのっけから軽快な勇ましい歌ではじまる。♪組合の精神が労働者の血となれば♪世界で最強のパワーとなる♪一人では小さな力しかなくとも♪組合が我らを強くする♪連帯よ永遠なれ！実はこれ、♪おたまじゃくしは蛙の子…、で知られる南北戦争時にはやった「ジョージア行進曲」の替え歌なのだ。替え歌といえばレイバーネットTVで歌っているジョニーHや毎月、経産省前で役人たちに配布している笑い茸の替え歌など思い出すが、「歌は世につれ世は歌につれ」ではないけれど、替え歌もいつかは本歌となる。この組合歌だって、英国の労働者を鼓舞する立派な歌になっている。日本でも誰もが親しめるメロディーを利用して労働歌をつくってみては一と、こんなことを書いたのは『パレードへようこそ』はけっこうおすすめ映画だからだ。（木下昌明・『労働情報』908号より転載紹介）



### ●ロビーをオキュパイして必死の訴え！～メトロコマース「暫定的再雇用の道開く」

4月1日、東京東部労組メトロコマース支部の「非正規生存権」を求めるストライキ行動。午後4時前、本社のあるビル4階ロビーは、メラメラハットの当該組合員と支援者で埋まった。中に入れまいと阻止する職制たちを前に、後呂委員長の非正規差別・65歳雇い止めへの怒りが爆発した。「賃金・手当すべてにおいて差別しておいて、10年以上働いても退職金は一円もなし。ご苦労さんの一言もない。社員には再雇用の道もあるのに、非正規は問答無用の首切りか！会社の責任者はいますぐに出てきて、再雇用の団交に応じる」。一切拒否を決め込む会社に対して、ロビーでは2時間以上にわたって座り込み、シュプレヒコール、『座りこめ ここへ』の大合唱が続いた。中で仕事をしているメトロコマースの役員・社員にその声が届いているのは間違いなかった。（M）



## レイバーネット日本の会員になりませんか

会員になれば、自分でニュースやイベント、お知らせを提供できます。レイバーネット日本は組合や個人が全国にアピールできる絶好の場所です。

年会費 3,000円  
（B会員＝5,000円 通常＋TVサポート）

現会員数 557名  
ウェブアクセス 1日 5000

郵便振替 00150-2-607244 レイバーネット日本  
銀行口座 東京都民銀行 小竹向原出張所  
普通 55002960

入会申込用アドレス apply@labornet.jp.org  
電話 03-3530-8588 ファクス 03-3530-8578